

## 次なる塚 立教百八十年の新たな年が暮 向 かって

デ 謹 います。 んで立教百八十年  $\mathcal{O}$ 新 春 のご祝辞を 申 L

とめ 教祖 えら 百三 昨 年 ħ 7 た大 皆様方 1 な 年 は ただ 喜 10 び 切 年 が 1 な時 1 12 執 に には、 たことと存じます。 ただけ 行 度 旬 さ おぢ  $\mathcal{O}$ n  $\mathcal{O}$ 御 教 るよう、 た ば 意 用 相 がえり 義 0  $\mathcal{O}$ 上 深 年 に、 そ 祭 11 れ を 年 ぞ 始 即 で 存 れ 8 あ 5 命 n 教 ŧ  $\mathcal{O}$ 与 祖

上にご て厚く 添え 迎え 11 区 まし そ 0 を た 0 横 た。 中、 尽 年 御 賜  $\mathcal{O}$ 諸 礼 力 لح ŋ 縦 を ま 活  $\mathcal{O}$ の系統教会活動と共 申 丹 L 思 動 精 た。 L 1  $\mathcal{O}$ 上 を賜 を高 上 げ に 昨 ま 年 8 り ţ す。 ま て、 年、 教 たことに 祖 誠 並 百 に有難うござ 時 Z な  $\equiv$ 旬 + 5 0 御 年 福 め 改 用 お 祭 島 力 を 教 8  $\mathcal{O}$ 

話  $\mathcal{O}$ 年 で 明 真柱様 を げ 陽 カ けての て本 気 迎 ぐら え は ま 年 は、 道である」と述べられた上で「陽 L L この た。 0 世 天 を実現 教 理 道は 祖 教 百 0 <u>√</u> することを目指す、 世 干 教 界 牢 ょ 祭の ŋ れつをたす 百 神 八 殿 + 講 年

> 思うのであります。 を育てることに力を らしの世界建設の ことを強く感じるのであります。 何にもまして、 4 気ぐら 出 そして、「これからの歩みを思案する時 7 し世 界実 ただきた 道の将来を担う人材育成する 現 ため の 着 いれなけ と強調されました。 に、 と呼 実な歩 たち n び ンみを勇 ばならな 働 か 特に陽気 けら くようぼ れ W で 踏

開け

きら 区 < 上 ご尽力ご丹精 を進めて参りた が  $\mathcal{O}$ て、 一げ、 福 お 地 各支部、 島 願 たす せ 次なる で、 V) 新 教 7 致 年 け 1 区 します。  $\mathcal{O}$ 各部 材 塚 あ ただきた で 育 挨 ŧ  $\mathcal{O}$ 11 拶 向 各会の 成 程 いと存じます。  $\mathcal{O}$ 次を目 と 輪 カコ を賜りますよう って、 1 が いと存じます。 0 それぞ 指 たします。 広 真 が 教区長 柱 るよ 新たな 様 れ 陽  $\mathcal{O}$ 0 引き続 う、 気 思 活 お願 本年 ぐ ス 平澤 動 タ 1 地 5 0 Ė き、 に ] 域 L 0 勇 V 上に、 申 沿 宜 活  $\mathcal{O}$ 福 1 教 動 輪 を 島

# 島教区本年前半の主な行事予定

3 月 28 日 春の学生おぢ つばがえ

4 月 2 日 教区 祭

月 月 29 14 日 H 基 全 教 碟 講 斉 座 びの 福 きし 島 デ ル W サ デ 開

催

6 月 3 H 婦 人会総 5

4

婦人会

前でな

T

K

# 「女子青年大会」

催

おいて、 兵里致帰福島教務支庁に10月30日 (日)、

テ

7

0

もと、

地

方

開

催

لح

き 年 年 百 会 年 親  $\mathcal{O}$ 大 0 会 とめ + 参 神 主 育ちま 恩 加 年 催 様 報 5 0 が 祭  $\mathcal{O}$ お ごい守 じの れ  $\mathcal{O}$ VI 祖 ま 第 20 旬 こよう」 護を 出 名 28 [来る女子 た。 天理教  $\mathcal{O}$ 心 口 を 女 女 11 子 日 教 た 0 な 袓 Z 婦

めて、 主任が 会長様 うみ り 5 未来の なり が 感 野 題 極 参 た 0 青年を育てさせてい \ \ \_ \_ 話 感 晴美さん 加 5 的 10 理 ĥ ý ま し で自 想 班 時 者 Щ 女子 代読されました。 な ピ より、 が 次の  $\mathcal{O}$ に 話 行 動 カン れから 女子青. で た。 あ メ 分 デ 分 5 の思い 時 青 オ ŋ ツ  $\mathcal{O}$ か は (まし 東 代 と続 上 体 セ れ 年 橋 たい。 もっつ 霧 年  $\mathcal{O}$ を 開 映 7 10 本 を受けて、 歩み」 担う女子 ジ き、 名も 숲 代 談 島 知 0 り ただだき を平 表 そ  $\mathcal{O}$ を 恵 と積 0 な 話 前 涙 Ū 婦 加 あ さ 改 لح 澤 そ わ な が 小 7

> んを終えました。 会の 話 ŋ (会東分) た が 前 挨拶を佐々木真 だ あ 7 に り 感 ま 7 が 心 つとめ、 ・ます。 通 後 は 5 لح 式 せ

閉

のてた

W

ち、 ょ たり、 勢 楽 声 り、 よう を掛けていきました。 この 12 0 午後は、 女子 今後とも、 を中心に て閉会となり ア お 了すること 1 大会 手作り 無 ラン お 力添えを 様 動 口 事 願 青年 のご協力ご 7 例 チタ 12 1 へ向 7 会など 委 品 致 和 毎 ツ こができ 月 けて、 女子 を サ 1 気 員 まし あ 例 販売 ・ムを ただき 長 年 を 会を 青 丹 11  $\widehat{\Xi}$ た。 ま L 荒 を 過 け 年 あ 持 大 7



典

第 2 部

では、「萬

# 復興支援チャリティー 雅楽演奏会」に出

れ、 龍 リテ 会雅 12 市 ル 11 1 部 イ| · 三 名も出演した。 福島教区の 月 27 日 楽演奏会」 ・コンサ 「管弦」では、 福島 重県文化会館 復興 日 雅楽 (支援 1 が 開 メ チ 催 津 中 重 ま バ さ 雅 7 ホ の直

会が「 ず 酒 紹 津 「陪臚」を演奏。 破 介 津雅龍会が催 雅 一壱越調音取」と「  $\hat{\mathcal{O}}$ 龍会が「平 を演奏 後、 福島教区雅 L た。 .馬 調音取」 各楽器 楽 伊 胡 楽 11

勢海 を謡った。

 $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 福島 道 その後、 氏 東日本大震災、 を会場の方全員で が代読  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 現状紹 演奏で童謡 平澤勇 غار ر 介 福島 を木 その S 教 X. る 区島後 長

れに演じ、最後に、「越殿楽」 を出演者全員で演奏してコ 陵王」を福島教区がそれぞ サートを閉じた。 を津雅龍会が、「 蘭

者は 様 後 な 足を止めて見入ってい お、 子も展示され、  $\mathcal{O}$ から現在まで ホールには、  $\widehat{Z}$  F(T) 来場 福 震 島









F

### 道の 教職員の集い

(

日 日

30 10

月

29

 $\pm$ 

城

県

仙 H

台

市

 $\mathcal{O}$ 

ホ

### 北 ツ ク 地 域 員 研 会 加

れ、地 2 名 加 域 ル 東北各部 役員 0 白 参 た。 萩 加 研 で だっ 福 教 修 会 東 島 区 た。 北 教 か 5 区 が ブ 開 29 口 カコ 催 名 ツ 5 が 3 ク

とに触 先 増やそう」  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 早 重 7 ルの下、 将 神殿講話 る大人の 田 信 式 性を 達 仰 来を 7行事 若者 こが今を 郎先 を れ、 が 話され 受 担担 0 責任 生の け 若 次 教祖 (後 う 後、 生 代 強調されたこ 真柱 継 上きる大 講話とな 人を育てる 百 11 本部 材 者 繋 できたこ との を育 様 11 が 講 车 タ を で 「道 師 祭 0

来年 まず、 こととな ク 地域役員会の 大会」 続 V 0 7 集ま [委員 < て討議された。 質 度 東 以 北 疑 会から 0 ŋ との ね 応答 田 降、 を開 先 り 口 名 生 あ があ ツクと 東 称で 在り方」 提示され 催  $\mathcal{O}$ 北 講 0 その ブ 7 た後、 で 口 1 口 は 結 た ッソ ツ

とが 会長 各教区 が X  $\mathcal{O}$ 꽢 提 でも が 悩 日 3 起 大 4 切 0 切 W  $\mathcal{O}$ 新 が 毎 なされ 認 方に 種 規 で ま ね 会員 あ 活 で、 知 た ŋ ろうと 働 動  $\mathcal{O}$ ても きか とに た。 報告と 事だ  $\mathcal{O}$ 区 加 で 0 け ど カン 入 0 課 意 る 不 で 活  $\mathcal{O}$ 足 教 は 題

### ツ 友 研 会」 を

泉 に、 11 西 月 浦 本 亚 29 松 忠 日 ホ 市 テ 岳 30 ル 道 温 日

道友社

修会」 た。 社友 て、 声 友 映 社 くと関 像 社 東 を開 課 長 北 係 担 لح <u>1</u>当の 者 催 清水 口 30 ツ 東北 ク 喜 が を迎 社 朗 6 県 友 • 加 研 え

0

平 0 をし 当日 澤 勇 は 開 教区 講 0 長が 言 葉 あ  $\mathcal{O}$ 浦 11 後、 さ 社

> n れ が 今 れ S す 後 組 オ 0 行 が カン み タ 自 ンによ きしん者 わ 5 0 1) を話り きたい 道友社 標と、 1 展 れ  $\mathcal{O}$ 望」 ネット 天 され る 理 ٤, を 2 活 現 لح 活 そ 時 代に 題 B 動 0 動 報 今 12 ス 万 中 1  $\mathcal{O}$ 人 後 手 現 7 力 7 に を 配  $\mathcal{O}$ 0 講 増 取 n 演

を交え 説明さ 区ホ 社 続  $\sim$ 課 れ ホ 意見 友さ その ] 1 担 ジ 当 て、 夜 A れ、 後、 ながら、 0 A  $\mathcal{O}$ が 方 橋本 映 部 -ジを紹 活用を促され ] 像 天 Þ は 疑 ジ 義 を 理 لح な 道 応 福 担 弘 映 教 各 介 島 . 当  $\mathcal{O}$ が 友 Ĺ が 福 が な 社 教 ホ た。 区 島 が  $\mathcal{O}$ 区 行 映 像 方 わ 教 5 A  $\mathcal{O}$ 



その

後

水

音

吉

映

像

1

拭 開 X

### 「女子青年大会」を前に 『教区総出ひのきしん』を実施



講話

中 n

ま

L

19 日 教 区 |総出ひ 0

催さ はた。 実 10 施月 10 れ さ 月 例 る 30 年 れ ため 日 は 各支部 9月に行わ 了女子青. それに合わせ から 年れ 39 -大会』 る がが が今 加

開年しが

きなど 始 長 力 月 共にきれ 支庁 遅 挨拶 を 5 地 Ú に集ま 内 0 ての 勇 いになった。 後  $\mathcal{O}$ んで行 除 開催となった。 それぞ のた参 草 P 加 れ 昼 物 者 前 作 は 内 は、

### 基礎講座

き下さいました。 央大教会長) で通し た。 今回 ル は、 基 が 礎 サ昨 を会場 一礎教理を分かりやすくお説 講 本部 講 年 師 座 11 言を勤めら. 講 月 福島会場」 師·柏木大明先生(東 13 日 第 21 日 口 が ビデオと 開 天 福 理 催 教

お当日は、 ただきました。 般 0 方7名を含 33 名  $\mathcal{O}$ 

方

な

今年で8年目を迎え ま 講 ずす 福  $\mathcal{O}$ 島 基

年とい 累計 です。 年 ŋ 場 点 行  $\mathcal{O}$ は、 ま も座 が き届 節 ŧ 774 う、 目 立た。 名 あ ま だ 教 لح 講 り か  $\mathcal{O}$ まなま年-180本な者

### 本年の開講予定

- 5月14日(日) 福島テルサ
- 郡山ビックパレット (土)
- (日)福島テルサ - 11 月 13 日 いずれも 13 時 30 分開講。

講師は未定

年 同 、ださい この「基礎講座」をご活 あげます。 心を合われ 7 目 布教の手立て」とし いただきますの ます 向 せ け、 よう て勇 M ス お Y

回

開

催

めさ て、 本 大

### 婦人会

# 委員部長の集

開

催

7

わ

思い つさんにも 今回は、 務 支庁 主島 座 任 教去 で開催 参 委員 る 区 委員部長だけでなく、 区加 では、 . 婦 11 L  $\mathcal{O}$ 部 月 人 ていただきた 長 30 母親講 日  $\mathcal{O}$ 37 伞 集い 名 区 水)、 が参 座 盘 を 加 講 美

> わ 員

人が介

必

ず話すことが出

ても楽 るんな

・ム「セ゛

ブンス」を行い、

ドを使った自

己

0

意

な

面

t

分かっ

し福 た。 島

教

な 員 部 長 0 を併 催

をか庁

れ 周

行 辺

な  $\mathcal{O}$ 加

わ

8 7

流

初流

が、

たと

0 きり

た。」と話され いう方は、「何

7

た。

か気持ち 神名 2 班

が

昼食後

ところから 者として、 することも多く まず、 れ 部 た方々 - さり、 たり 感想が寄せられた。 長 スかりや お 先 から 大変 話 何 現在 生 が は 師 11 大切 まで母 分 づ に ż 母 カン 4 親とし なの ŋ の親 先生 母 11 大変よか Ŕ 親 ま 実 が すく 体入 カュ L  $\mathcal{O}$ 信 お話 験 をおれ 苗 0 60 信 は が代 参 共 仰感 加分 話 た

わ 委員部 長の が

か いう声もあ Ŷ W





「ようぼく成人講

座

開

催

### 耶麻支部

### 藤 日)、 は 容 耶 麻

支 支

部

長)

部

11

月 6

日

30 うぼく成人講座」 教会にお (君福分教会長) 名が参 加した。 いて木島勇道 を迎え、「よ 猪苗代 を 先生 分

今回 は 仕者の 「おつとめ 養成」 つとめ を目的  $\mathcal{O}$ 再 確

を行い、 テ その後、 式 物に分かれてお 後、 ること」に Ś 、キストを読んだり、 で総合練習まで行 神様 続い 講師が て意見 をテー 総合司会の進行で、 0 最後には月次 何 を マで開 を お 出 願うか」  $\mathcal{O}$ てふり、 0 7 とめ ため お 催 った。 · 祭 形 É 振り 練習 0 鳴 祈





切 返りをし パさを 加者からは、「やはり、 再 認 て、 識 おつとめ

0 大 教  $\mathcal{O}$ 会 感  $\mathcal{O}$ 想が寄せら 命 は お つとめ ń た。

だ。

N . S

## 「ようぼく成 人講座」 開

催しました。 ようぼく成 お では、 島勇 人講 今年 道支部 わき支部 座 2 11 月 19 城平 回 を開 目 日 0

育成 りました。 そこに込められ が お ようとの思 つとめ」を勉強することで、 口 には ってい つとめ お 所は、 (親心)を掘り下げて見 道 お道の基本である 0 、ます。 奉 将 そのまま各教会 住 来を担 で 者 た神様  $\mathcal{O}$ そこで、 う人材 育成 開 催 の思 お 今 繋  $\mathcal{O}$ (7)

れが 講師 と 比 ことができ、 自覚と、 たひとときでした。 参加者は24 教  $\mathcal{O}$ べ 祖 話 て少な目で 大切さを再認  $\mathcal{O}$ を おつとめ 道 聞 1名と、 とても 具衆とし  $\mathcal{O}$ 充 識 素 それ 実 す 7 つも

 $\widehat{\mathbf{M}}$ K

### 「ようぼく 成人講座」 開催

### 田村支部



をテー 名が参加した。 生(行理山分教会長)を迎え、「さあ、 18 日 田村支部 土、 マに「ようぼく成人講座」 (平澤: 三春分教会において橋本忠 八重支部長) では、 を開催、 おさづけ」 知先 11 月

交えて分かりやすかく ける。」ということを、 は。」「子供におさづけを取り継ぐ大切さ。」「さ さづけで人はたすかるのか。」「医療との んさい心に残り、大人になっても忘れない。」 おさづけで神様の存在が分からせてい おさづけは何故私達に渡されたの お 自教会での体 話 1 ただい か。 た。 験 違い 談 ただ

えた。 たす 最後に、 かって貰い おさづけは正に親心である。 たい からとしてお話しを終 それ

### 会津支部

は、 会津 雄 11 月 「ようぼ 支部 支 20 部部

で開催 色鉛筆を使って筆写や音読 よう~』をテーマに沿って、 を通して、 かがやきプロ 守 '護~幸せの神名を唱え 22名が参加した。 十全の守護 グラム 『十全 の神

# 「ようぼく成 開 催

日 長 間宮 く成 日

ともに、

各々が感じたことをグル

]

名と説き分け

を分かりやすく勉強

する

内で発表

しあ

0

た。

を会津若松分教会

守 出 ·護 の では かせていただく講座となった。 来事を通し また、 初め 0 話合い 中で見過ごしがちな中に改 有難さ、 ね て参加し 講師 ŋ の中に自然と入れ あい ての話 0 生江 感謝 た受講者からは、 に少し抵抗  $\mathcal{O}$ では、 心を普段 行先 親神 生 があ  $\overline{\mathcal{O}}$ 様 身近 0 8 また、 暮ら のご 7 な 気

が、 ま あった。 内容も分かり易くよかった」との声 N M



# 「の学生おぢばがえり 3月26日 (日) ~29日

水

27 日 日 日 式典、 神殿案内、 須賀川分教会発―おぢば着 別席、 奈良観光、 直属アワ 別席、 前 夜

日 18 時 朝 須賀川分教会着 天理

加 2万円

(2月15日までに申し込みの方2割引)